

# ロシア極東地域農業開発にみる 共生の期待と不安

堀江 典生

富山大学極東地域研究センター

# 趣旨

- \* ロシア極東地域の農業開発への期待の高まりと農業において耕作地・作付地の減少が甚だしく、休耕地が増加している現状と中国人農業労働者のロシア極東地域への流入の関連を考察する。
- \* 眉唾な不法移民論議ではなく、連邦移民局データから語れることから考察する。
- \* ロシアにおける農林業部門の外国人労働者賦存状況を明らかにし、農林業を例としたロシアの外国人労働分析の試みとする。
- \* 中国人移民問題がロシア極東地域農業開発にどのように影響し、どのような共生課題が見いだせるかを考察する。

# 研究の動機

- \* 高まる中ロ国境地域経済協力への期待
- \* 外資を活用したロシア極東地域農業開発のニュース
- \* ロシア移民研究文献サーベイからわかるロシアにおける中国人移民問題における経済分野別分析の不在
- \* ロシア連邦移民局統計資料の利用とその限界

# ロシア極東への農業分野進出

- \* 現代重工業など韓国系11社が農場を経営し農地総面積は約7万ヘクタール
- \* 北海道の農業法人や農業関連企業など10社が共同でハバロフスク市郊外に千ヘクタールの農場を開く計画
- \* 中国黒龍江省企業がロシアに置く農場、拠点の総面積はすでに2009年末で約34万7千ヘクタール
- \* 牡丹江市企業がロシア極東地域で経営している農耕地約15万ヘクタールがロシア極東地域の農産物消費量の3分の1を供給
- \* 黒龍江省黒河市では、2009年にロシアで農業用土地5万3千ヘクタールを開発し、黒河市27企業が参加して大豆、小麦、トウモロコシなどの生産

# 中国農業とロシア極東

中国東北地方からロシア極東地域に輸出される農産物



- \* 地産地消としてのロシア極東での生産
- \* ロシア極東地域の穀物輸出の展望
- \* 周辺諸国の食糧安全保障のための穀物生産地
- \* 「農産物生産における協力プロジェクト」
  - \* アムール州に農業技術移転センターを設立
  - \* 請負・下請などにおける農業、畜産、建設などのプロジェクト  
(短期中国人就労による協力)

# 期待高まる農業開発におけるロシア極東地域の不安

- \* 「我々には空いた土地がある。開かれた可能性がある。それらはまだ利用されていないだけである。なぜなら、そこには住民が少ないからだ。」(ロシア連邦経済発展省アンドレイ・スレプネフ事務次官)
- \* ロシア極東地域は中国からの経済圧力と人口圧力を脅威として中国脅威論が盛んに議論されてきた地域
- \* アムール州:未開墾地に限った大規模な農業開発を北朝鮮と実施と北朝鮮労働者受入拡大
- \* 「我らの大地は我らの手によるものでなければならない」(アムール州オレグ・コジェミャコ知事)

# ロシアの農業経営

- \* 農業企業：48.1%（主に穀物生産）
- \* 農民（フェルメル）経営：8.5%（穀物生産やひまわり種子生産）
- \* 住民経営：43.8%（ジャガイモ、野菜、果物）→ロシア農業のいびつさ
- \* 耕地面積の約80.5%が農業企業、16.4%が農民経営、そして残り3.1%が住民経営

# 急速な農用地・耕地面積の減少 耕作放棄地が市場経済化以降拡大

		1990	1997	2006	1990-2006 年減少率
ロシア極東地域 (千ヘクタール)	農用地面積	6648.0	5723.8	3142.1	-52.7%
	耕地面積	3191.9	2657.4	1604.0	-49.7%
	作付面積	2892.4	1752.8	1276.8	-55.9%
ロシア連邦全体 (百万ヘクタール)	農用地面積	213.8	206.2	166.0	-22.4%
	耕地面積	131.8	124.5	102.1	-22.5%
	作付面積	117.7	96.6	77.1	-34.5%

農民経営は、1経営当たりロシア平均で81ヘクタールの土地で経営を行っているが、アムール州は1経営当たり193ヘクタール、ユダヤ自治州は255ヘクタールと農民経営面積は飛び抜けている。これは、アムール州などが穀物地帯であり、それゆえ大規模な経営が農民経営においても行われているからであるが、それは同時に機械と労働力が要求されることを意味する。<sup>8</sup>

# よく説明に使われる理解

- \* 旧ソ連時代：収穫期には工場労働者・職員、兵士や学校の学生たちを動員する援農システム
- \* 市場経済化以降：人手不足が顕在化



- \* 人口過少なロシア極東地域では、外国人労働力に生産を依存することになる(ロシア極東地域の一般的構図：労働力を輸入するか，原料を中国側に輸出し，加工するかを選択)。
- \* ロシア極東地域は中央アジア諸国からの出稼ぎ労働者にとってあまりに遠く、移動コストが高く、魅力的な地域ではないと言われている。

# ロシアにおける外国人労働問題研究 経済分野ごとの研究の欠如

- \* 中国人移民は、振り子のように中口を往来する卸売市場や流通関係の仕事の関係者であるにもかかわらず、ロシアにおいて単に労働者というカテゴリーで括られているために、ロシア側は中国からの労働移民の特徴を把握できないている（Дацышен 2009, 堀江 2011）。
- \* ロシアにおける中国人労働者を労働移民として一括に取り扱ってきた研究では、こうした地方の中国人労働移民の実情を捉えることはできない。中国人労働力を経済部門ごとに評価することは難しく、今後の研究課題でもある(堀江 2011)。

# 散在する中国人農業労働者の記述(先行研究)

- \* 帝政時代:定住・長期滞在中国人農業労働者7万8千人(1916年時点),季節労働者も多数いたが,農夫の中心は朝鮮人(Кабузан 1985)。
- \* 中ソ対立による労務輸出停止,再開は1988年2月(黒竜江省黒河より農民67名がソ連沿海地方で農業に従事)。
- \* しかし,沿海地方では,1970年代より中国人・北朝鮮人農業労働者が請負栽培,ソ連崩壊後も沿海地方では農業の基幹労働力として中国人がいて,ハバロフスク地方やアムール州では中国人労働者は基幹労働力ではなかったとの報告(大沼et al. 2000)。
- \* 90年代中国人出稼ぎ労働者が減少するなか,沿海地方やアムール川流域の農村では地元住民を雇用せず,休耕地を使って中国人に請負生産をさせていたとの記録(Загребнов 2008)。
- \* 農業労働者としての中国人は統計的には捉えにくい。ロシア人が何人かで農地を借用し,非正規に中国人を雇い入れているからだ(Дацышен 2009:クラスノヤルスクの例)。
- \* 中国人農業労働者は,契約労働として働かず,農地を借り上げて農作物を生産しており,野菜の約半分は中国人のそうした農業生産によるものである(Shkurkin 2002)。
- \* 沿海地方では,中国・北朝鮮人が契約栽培を行い,農場側が肥料と機械を提供し,収穫物を農場側が4割,請負側が6割で分配するシステムがあった(大沼et al. 2000)。

# 中国人労働者の地域分布

中国人労働者地域分布(2008年)

中央連邦管区	29.8%
モスクワ市	28.7%
北西連邦管区	3.9%
サンクトペテルブルク市	3.5%
南部連邦管区	1.6%
沿ボルガ連邦管区	1.2%
ウラル連邦管区	8.7%
スベルドロフスク州	5.7%
チェリャビンスク州	2.5%
シベリア連邦管区	31.5%
ブリヤーチア共和国	3.2%
クラスノヤルスク地方	5.9%
イルクーツク州	6.2%
ノボシビルスク州	3.7%
ザバイカル地方	9.7%
極東連邦管区	23.3%
沿海地方	5.7%
ハバロフスク地方	3.9%
アムール州	8.4%
ユダヤ自治州	2.4%

・欧州部からウラルまでは、大都市中心の分布(商業活動中心)

・シベリア・極東においては、農林業分布の影響もあるかもしれない。

極東連邦管区	100.0%
沿海地方	24.5%
ハバロフスク地方	16.7%
アムール州	36.1%
ユダヤ自治州	10.3%
サハ共和国	6.7%
その他	5.8%

# 外国人農林業就労者数/農林業就労者数

モスクワ市	87.4%
ユダヤ自治州	28.5%
アムール州	24.2%
アストラハン州	13.0%
カルーガ州	12.8%
ハバロフスク地方	12.4%
サハリン州	9.8%
サンクトペテルブルク市	9.6%
モスクワ州	8.2%
ヴォルゴクラード州	8.1%
クラスノヤルスク地方	7.3%
ザバイカル地方	7.0%
沿海地方	6.0%
マガダン州	5.6%
リヤザン州	5.0%
カレリア共和国	4.1%

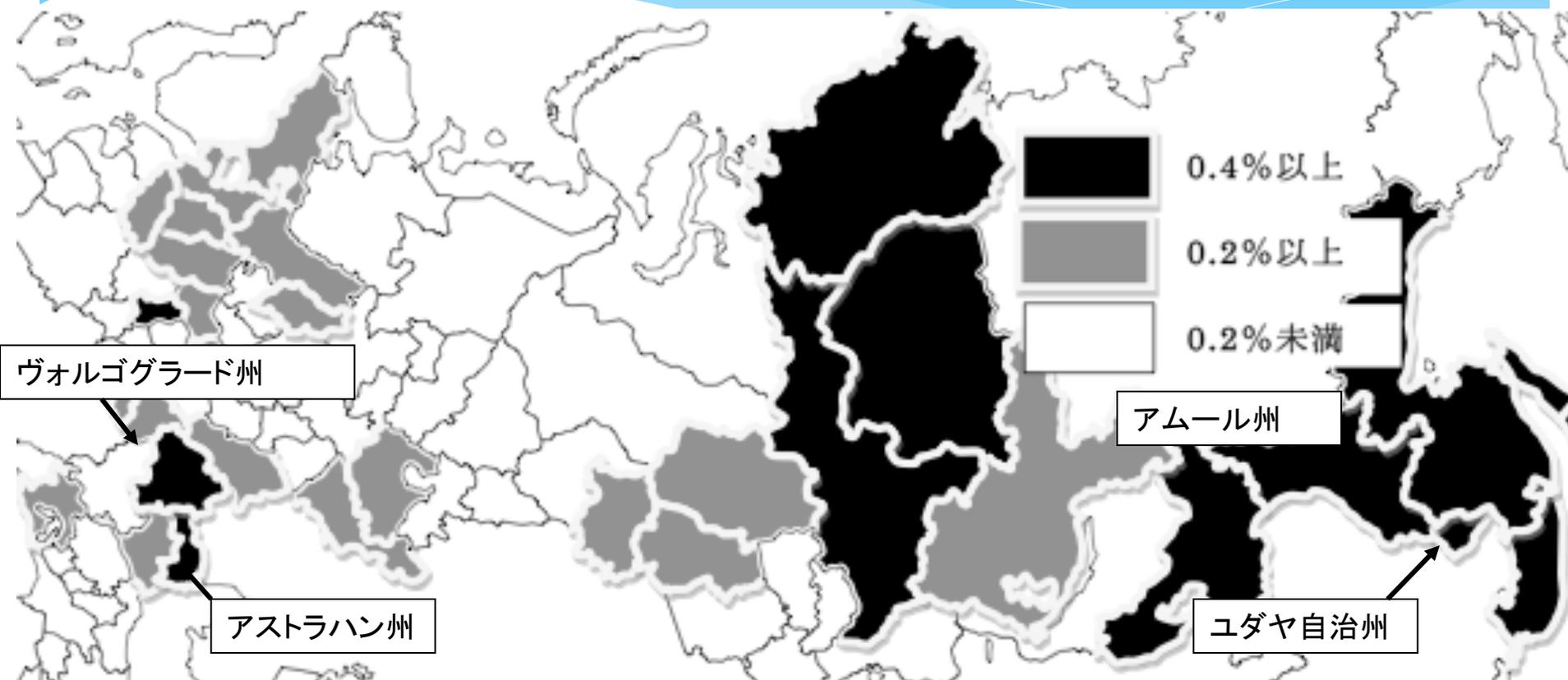
極東連邦管区	11.0%
中央連邦管区	3.2%
シベリア連邦管区	2.7%
北西連邦管区	2.6%
南部連邦管区	1.9%
ウラル連邦管区	1.6%
沿ボルガ連邦管区	1.0%
ロシア連邦	0.8%

外国人就労者比率の高い連邦構成主体

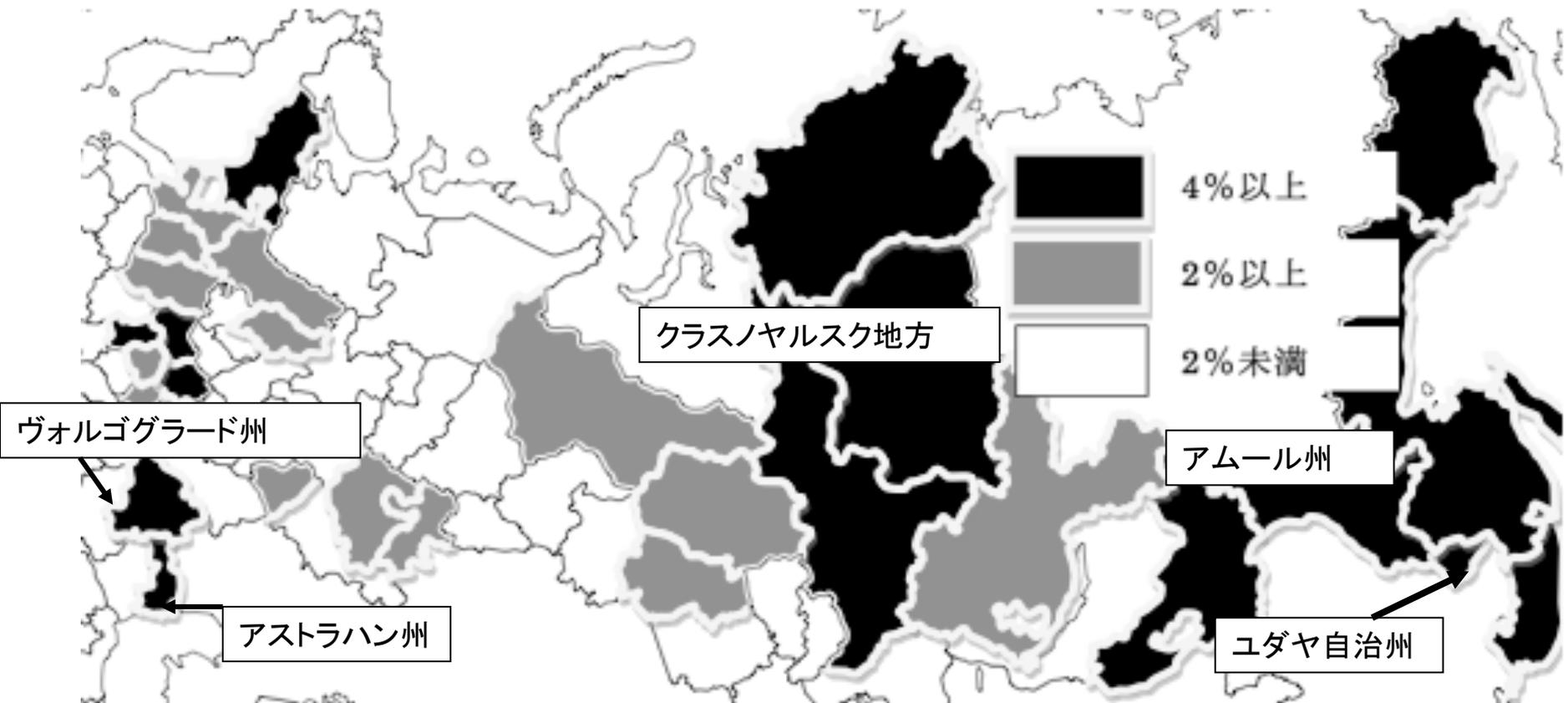
1	チュクチ自治管区	17.0%
2	サハリン州	13.3%
3	ヤマロ・ネネツ自治管区	13.3%
4	モスクワ市	10.3%
5	ユダヤ自治州	9.0%
6	ハンティ・マンシ自治管区・ユグラ	8.3%
7	アムール州	7.5%
8	ザバイカル地方	7.2%
9	チュメニ州	6.4%
10	モスクワ州	6.3%

ロシア極東農業の外国人労働力依存が極めて高いことがわかる

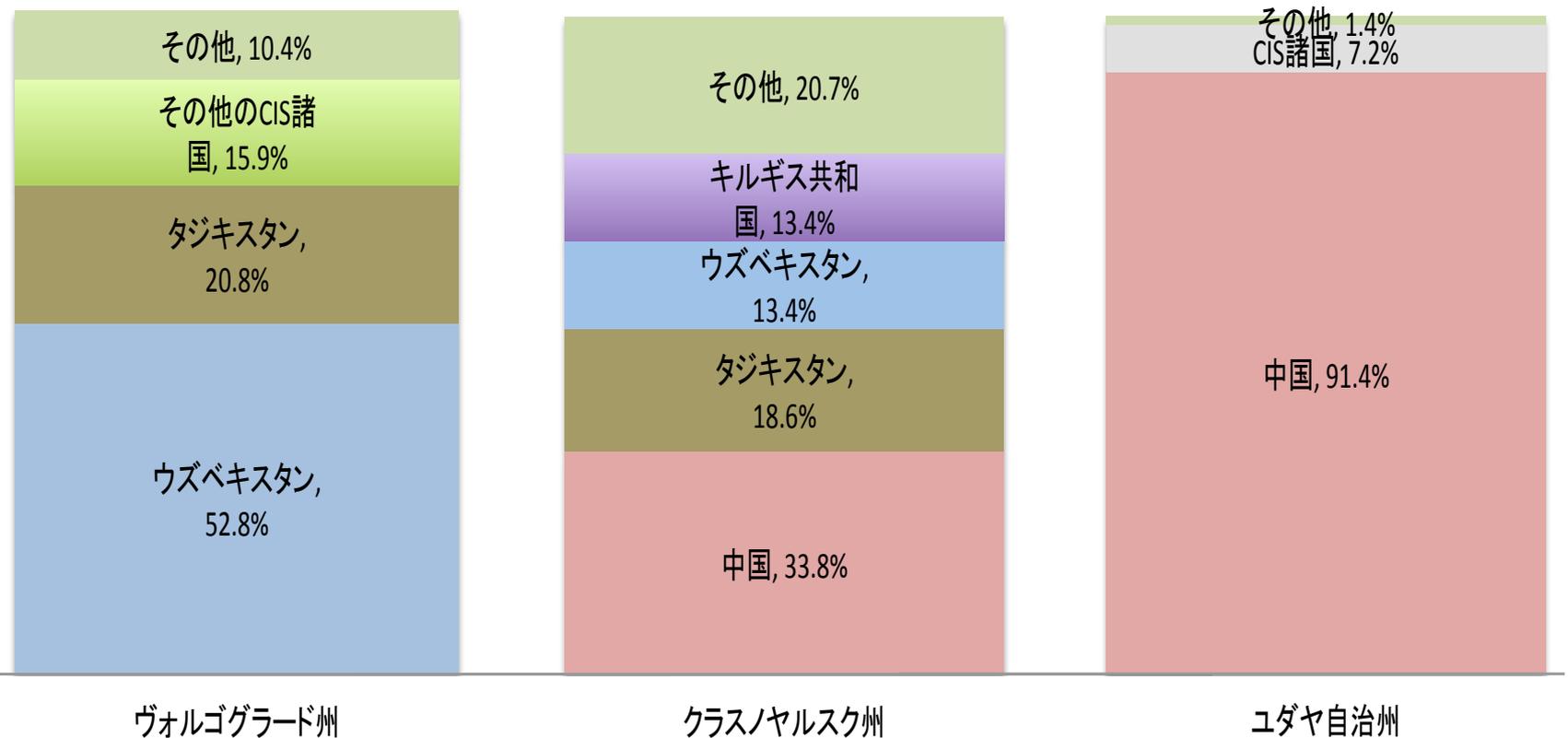
# 地域別就労者数に占める 外国人農林業部門就労者(2008年)



# 地域別農林業就労者数に占める 外国人農林業部門就労者(2008年)



# 南部・シベリア・極東における外国人農林業就労者が多い 連邦構成主体の外国人労働者出身国構成



# アムール州・ユダヤ自治州の外国人労働者は主に農林業で働く

極東地域の農林業外国人分布	外国人労働者分布	外国人農林業労働者分布	外国人農林業労働者数/外国人労働者数
極東連邦管区	100%	100.0%	-
沿海地方	18.7%	17.1%	14.1%
ハバロフスク地方	18.6%	19.4%	16.0%
アムール州	18.0%	46.1%	39.5%
ユダヤ自治州	4.2%	12.6%	45.5%
サハリン州	21.2%	4.1%	3.0%
その他	19.3%	0.7%	0.6%

# ロシアにおける中国人農林業従事者 内訳(2009年)

	人数	%
中国人労働者総計	186,492	100
農林業従事者	39,022	20.9
内訳 農業・狩猟・関連サービス活動	29,699	農林業のうち 76.1
林業および関連サービス提供	9,323	23.9

# ロシア農業の外国人労働の特色

- \* ロシア極東地域の極端な中国人労働力依存
- \* 南部地域の中央アジア・カフカス労働力依存
- \* シベリアの中国人労働力と中央アジア労働力の共存

# 結論

- \* ロシア極東地域において休耕地が増え、労働力不足が深刻な農業において、ロシア側が中国人農業労働者や中国企業に農業生産を委託することが盛んに行われており、黒竜江省企業がそれをビジネスチャンスととらえて、積極的な事業としてロシア極東地域に乗り出している。
- \* それを裏付けるようにロシア極東の農業地帯では、極端な農業労働力の中国人依存が見られる。中央アジア・カフカス労働力と中国人労働力の農林業における棲み分けがある。
- \* ロシア極東地域は、中露地域間協力の名の下に、中国企業の進出と中国人労働者の受入を農業部門においても深めることになる。
- \* ロシア極東地域の資本と労働がこうした輸入代替と輸出産業化の展望をもつ農業生産にどのように反応するか、これがロシア極東地域住民の間に根深い中国脅威論に再び火をともしることなく、中露国境を越えた共生の道となるかどうか、注視されるところである。